

ソフィアメディ 活動レポート 2025

2024.04 ▶ 2025.03

 医療現場のソフィアメディ
Sophiamedi



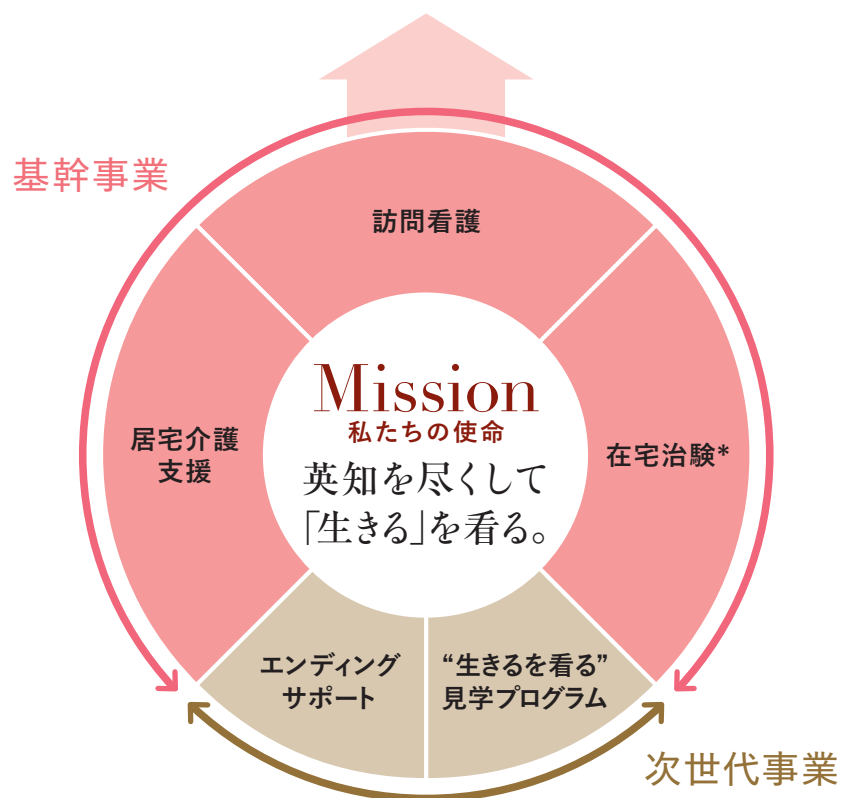




地域の皆様とひとつのチームとなり 持続可能で質の高い 在宅療養の提供に貢献します

Vision 私たちの目指す未来

安心であたたかな在宅療養を日本中にゆきわたらせ、
ひとりでも多くの方に、ここから満たされた人生を。



人生100年時代と呼ばれる今、「住み慣れた場所で自分らしく過ごしたい」と在宅療養を希望される方が増え、地域包括ケアシステムの役割はますます重要になっています。私たちはその役割を担う一員としてひとりでも多くの方へ安心であたたかな在宅療養をお届けできるよう、持続的かつ質の高いケアを提供するための体制整備を進めています。これからも地域の皆様と共に歩みながら、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指してまいります。

“「生きる」を見る。”を軸に 多角的なサービスを展開しています

“英知を尽くして「生きる」を見る。”というミッションを軸に、5つの事業を運営。これらの事業活動の積み重ねを通し、ビジョンの実現を目指しています。

訪問看護

「住み慣れた場所で過ごしたい」というお気持ちに寄り添い、どんなに重い疾患の方でも安心して在宅療養生活を送っていただけるよう、24時間365日体制の拡充と、ケアの品質向上に力を注いでいます。

居宅介護支援（ケアプラン）

7カ所の訪問看護ステーションに併設。医療職スタッフとの連携により、医療ニーズの高い方も自宅でも過ごしやすいケアプランを作成します。地域の方々と連携を図り、適切な解決策を見出します。

在宅治療*（Home nursing）

訪問看護師が治療参加者宅等へ訪問し、治療上必要な行為を実施するDCTサービス。従来より参加者の負担が軽減され、新薬開発の加速につながります。食品を始めとする臨床研究においても実施しています。

*当社呼称

エンディング サポート

大切な方をお見送りされるご親族のご負担を少しでも和らげ、心穏やかに最期のひとときを過ごしていただけるよう、ご希望に応じて手続きに関するサポート冊子のご提供や葬儀社などのご紹介を行っています。

“生きるを見る” 見学プログラム

患者様目線での商品や医薬品開発、サービス向上に活かしていただくこと、そして在宅療養の快適性や利便性向上を目的に、訪問看護の場を実際にご覧いただける見学プログラムや研修を提供しています。

事業所

訪問看護ステーション*

87カ所

2023:88カ所

* 分室を含む数

居宅介護支援事業所

7カ所

2023:6カ所

特定事業所加算

Ⅱ 1カ所 (2023:1カ所) Ⅲ 2カ所 (2023:2カ所)

事業所あたりのスタッフ数
(常勤換算 / 訪問看護ステーション)

12.6人

2023:12.2人

※開設1年未満の事業所を除く

全国平均:7.8人

(全事業所対象/2020年)

出典:全国訪問看護事業協会(2021)「訪問看護アクションプラン2025の最終評価(案)」(データは厚生労働省 介護サービス施設・事業所調査に基づき集計)

スタッフ

看護師数

804人

2023:765人

セラピスト数

543人

2023:517人

医療事務

103人

2023:97人

管理部門

132人

2023:129人

理学療法士

328人

(2023:305人)

作業療法士

170人

(2023:166人)

言語聴覚士

45人

(2023:46人)

お客様

お客様数

14,267人

2023:13,615人

事業所あたりのお客様数

164.0人

2023:157.2人

※開設1年未満の事業所を除く

地域連携

連携医療機関数*

4,593カ所

2023:4,486カ所

* 訪問看護指示書の発行元医療機関数

連携事業所数(居宅介護支援事業所)*

3,432カ所

2023:3,293カ所

* お客様の担当ケアマネジャー数

注釈: 居宅介護支援事業所数以外の項目は、訪問看護に関する実績です/「地域連携」以外の項目は2025年3月末時点のものとあり、「地域連携」の項目は2024年4月～2025年3月ののべ数を表します

—どんな疾患の方でも、住み慣れた場所で「こころから満たされた人生」を—

地域から求められる 在宅療養環境の実現へ向けて

質の高い在宅療養の 提供へ向けた 3つの重点テーマ

事業本部
第一事業部長

信田 明



2024年度は在宅療養の需要が一層高まる中で、訪問看護の果たす役割が改めて認識される一年だったと感じています。独居の方や医療依存度の高い方が在宅で療養されるケースが増え、訪問看護には質の高いケアと迅速かつ柔軟な対応がますます求められるようになりました。このような期待に応えるべく、2024年度私たちは特に「24時間365日体制の拡充」「専門性の強化」「緩和ケアの充実」という3つのテーマに注力してまいりました。次頁以降で詳述しておりますが、これらはすべて、どんな疾患の方でも住み慣れた場所で「こころから満たされた人生」を送れるよう目指した取り組みであり、継続して強化していく所存です。継続して強化していく所存です。今後も地域において持続可能な医療インフラとなるべく努力を続けてまいります。

緊急時の対応・
介護者の
負担軽減

Theme 01 | 24時間365日体制

毎日安心して過ごせる在宅療養体制

症状の多様化・複雑化が進む中、どんな時も安心して過ごせる在宅療養体制の整備がますます求められています。当社では、24時間365日体制や感染・災害対策など、ご本人もご家族も安心して生活を送れる環境づくりに取り組んでいます。

病院から
在宅への移行・
在宅での
医療処置

Theme 02 | 専門性の強化

医療依存度の高い方や、多様な疾患への対応

近年、医療依存度の高い方や終末期の方も、在宅での療養を選ばれるケースが増えています。当社では、病院と同水準のケアを提供できるよう専門性の強化に取り組むとともに、小児や精神科など多様な疾患への対応力向上も進めています。

生活の質(QOL)
の重視・
在宅での
お看取り

Theme 03 | 緩和ケアの充実

人生の最終段階においてその方らしい生き方の選択肢を

病気だけでなく「生きる」を看するという理念のもと、「最後まで自宅で暮らしたい」という想いに寄り添い、生活の質を保ちながら穏やかに療養していただけるよう、緩和ケア認定看護師を中心にケアの質向上に取り組んでいます。



Theme 01 24時間365日体制

毎日安心して過ごせる 在宅療養体制

■ 土日祝含む365日の定期訪問

当社は95%の訪問看護ステーションで土日祝を含めた定期訪問を実施しています。お盆や年末年始を含め途切れることのない支援をお届けすることで、体調の変化に迅速に対応するだけでなく、ご本人やご家族の方の精神的なご負担を軽減できるよう努めています。



品川 / 大田 / 港エリア
エリアプロデューサー
看護師
川田 雅子

在宅療養においては、夜間や休日でもすぐに相談できる体制、そして「いつでも支えてくれる人がいる」という安心感が生活の質を大きく高めます。その安心をお届けできるよう体制整備に力を入れています。

365日の定期訪問を
実施しているステーション数

83カ所

全ステーションのうち95.4%

2023:71カ所

年末年始の訪問件数

8,950件

期間：2024/12/30～2025/1/3



■ 緊急対応体制の整備

いつでも安心して療養していただけるよう、すべての訪問看護ステーションにおいて24時間365日のオンコール対応を実施しています。また対応中に別の方からお電話をいただく場合も想定し、ほとんどの事業所で緊急電話を2台体制で運用しています。



九州エリア
エリアプロデューサー
看護師
山口 浩平

緊急・24時間対応加算契約率*

63.5%

2023:53.3%

参考：全国平均・介護保険 60.6% 医療保険 61.4%
(出典：介護サービス施設・事業所調査 令和3年9月)

緊急訪問件数

6,972件

2023:6,494件

*お客様のうち緊急契約
をしている方の割合（「緊急
時訪問看護加算または
「24時間対応体制加算」）

■ 災害・感染症対策

業務継続計画の策定のほか、お客様の災害対策の状況確認や連携先との情報共有を行っています。また、災害・感染分野の専門看護師・認定看護師を中心に研修や訓練を実施し、お客様とスタッフの安全を守り、非常時にも事業を継続して提供できるよう対策を進めています。



災害看護専門看護師
今野 知穂

■ 非常時に備えたBCPやマニュアル等の一覧

【災害対策】

災害BCP	災害時用記録用紙・業務日誌
災害マニュアル	防災対策状況確認シート
災害時ポケットマニュアル	医療処置別事前教育チェック表
アクションカード	緊急支援カード

【感染症対策】

感染BCP
感染対策マニュアル

■ 事業所関連 ■ お客様関連

Theme 02 専門性の強化

医療依存度の高い方や、 多様な疾患への対応

近年訪問看護では、人工呼吸器や点滴管理を必要とする方、複数の疾患を抱える方など、医療依存度の高い方への対応が増加しています。こうした多様なニーズに応えるため全社で専門性の強化に努めています。



QM推進グループ
マネージャー
理学療法士
田邊 政郁

■ 専門看護師・認定看護師によるケアの質向上への取り組み

専門看護師・認定看護師と品質向上・育成の専門部署が中心となり、事業所へのコンサルテーション、研修やハンドブック・パンフレットの作成を実施し、全社でのケアの質向上に取り組んでいます。また特定行為修了看護師は月例の定例会議で対応症例を共有し、実践力の向上を図っています。

専門・認定看護師数

21人

2023:26人

専門看護師

感染看護／老人看護／災害看護：各1人

認定看護師

緩和ケア：4人

皮膚・排泄ケア／摂食・嚥下障害看護(A課程)：各3人

集中ケア／訪問看護／がん性疼痛看護：各2人

クリティカルケア／認知症看護：各1人

■主な活動

研修の実施

コンサルテーション

学会発表や外部講師

ハンドブック・パンフレット作成

特定行為修了
看護師数

8人

2023:6人

■ 医療依存度が高い方への対応力の可視化

別表7と8*・中重度対応が必要な疾患・状態ごとの医療技術・調整技術について、100項目以上の指標を作成し、スタッフによる自己評価により対応力を可視化しています。この結果をもとに必要な事業所へ手技確認や指導を行うことで、ケアの質向上につなげています。

手技確認・指導を
行ったステーション

42カ所

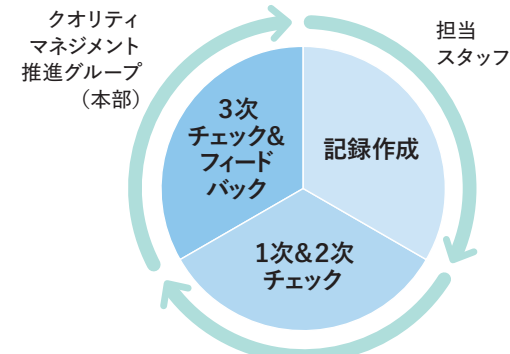
■ アセスメント・記録の適正化

ケアの質向上や地域機関への的確な情報共有のため、アセスメントや記録の適正化を推進。勉強会に加え一部の対象については事業所と本部が連携し3段階でのチェックを行い、全社で水準向上に努めています。

■ チェックポイント

- ☒ 指示内容と計画の紐づき
- ☒ アセスメント内容と計画の紐づき
- ☒ 計画と実践の紐づき
- ☒ 計画と介入の結果・変化の報告

■ 3段階でのチェック体制



カルテ係*・管理者(事業所)
*カルテ係は各事業所に配置される
カルテや帳票のチェックをとりまとめる役割

別表7*の疾病を持つ
お客様数

1,809人

2023:1,160人

別表8*の状態に該当する
お客様数

2,385人

2023:1,701人

特別訪問看護指示書
実施数

66,404件

2023:52,680件

特別管理加算
算定数

27,186件

2023:23,987件

精神科訪問看護
お客様数

1,102人

2023:978人

小児訪問看護
お客様数

607人

2023:513人

*別表7とは厚生労働大臣が定める、医療保険による訪問看護が可能な疾病の一覧。
別表7が「疾病」であるのに対し、別表8は厚生労働大臣が定める「状態等」の一覧

「生きる」を見るストーリー

Case 01

4職種による専門的なケアの継続で その方らしくいられる安心な在宅療養を

疾患名 脊髄小脳変性症、高血圧症、微小血管狭心症

保険 要介護4・医療保険

ご要望 80代・旦那様、息子様、娘様と同居・苦しみことなく長く生きてほしい（ご家族より）

訪問体制 看護師（週3回）・理学療法士（週1回）・作業療法士（週1回）・言語聴覚士（週1回）

わずかな情報も見落とさない、4職種が結集するケアの質

7年前より訪問を開始。2年前の冬に医師から病状について厳しい見通しを告げられ、延命のために胃瘻を増設されました。そのタイミングから、看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士という4職種での介入を開始しました。

ご本人は意思疎通が難しいため、痛みや痒みといった苦痛の訴えは、娘様とともにわずかな表情の変化を読み取るようにしています。楽な姿勢をとるためのポジショニング、痒みを軽減するスキンケア、筋緊張を緩和するリハビリ、誤嚥性肺炎を予防する口腔ケア、どのケアに対してもそれぞれの専門職の視点から最適なケアが提供できるように努めています。同じステーション内で専門職同士の連携が取れるため、日々の些細な変化にもすぐに対応でき、現在まで大きな合併症を起こすことなく在宅での療養を継続できています。

■ケア内容

看護

全身観察、清潔ケア、排便、浣腸、皮膚状態観察、胃瘻周囲ケア、軟膏処置、家族支援 など

リハビリ

体位変換、ポジショニング、環境調整、マッサージ、ストレッチ、嚥下評価、口腔ケア など



ご家族様からの声

スタッフの方に色々なことを指導していただいているおかげで、悩むことなく介護できています。最近夜中に痰が絡んで苦しそうだった時も、電話したらすぐに看護師の方が来てくれて助かりました。本当によくしていただき、感謝しています。（娘様より）

担当スタッフより

ステーション小山 看護主任 松本 力

娘様は明るいお人柄で、献身的に介護にあたられています。その存在を中心に、医師・ケアマネジャー・ヘルパーなど多職種が良好なチームを築き、連携しながらケアを提供できていると感じています。今後もその連携を大切にしながら、全力で支援を行ってまいります。



※言語聴覚士による訪問対応はステーションにより異なります。

Theme 03 緩和ケアの充実

人生の最終段階において その方らしい 生き方の選択肢を

在宅での緩和ケアのニーズは急速に高まっています。本人の「こうありたい」という思いを何よりも大切に、その人らしい穏やかな最終段階を支えること。同時に、ご家族のご負担を減らし不安なく介護していただくことを目指し、充実化を図っています。

■ ご家族向けの パンフレット

最終段階を支えるご家族のご負担が和らぐよう、ご家族向けのパンフレットを作成。吸引や在宅酸素等の医療処置や、最期を迎える前に予想されるお身体の変化などの知識をお伝えすることで、少しでも安心して介護にあたっていただけるようご支援しています。

■ 緩和ケア認定看護師ら による支援

認定看護師が講師となり、がん性疼痛や呼吸困難に関する研修を実施。また、症状ごとにアセスメントや看護のポイントを記載した緩和ケアハンドブックを作成・配布し、スタッフの実践力を高め、質の高い緩和ケアの提供につなげています。



緩和ケア
認定看護師
馬淵 瑞生

在宅看取り率*

63.2%

2023:61.1%

ターミナルケア加算
算定数

917件

2023: 893件

エンゼルケア
実施数

1,054件

2023: 1,005件

**自宅・施設でご逝去された方の数/死亡者数

「生きる」を見るストーリー Case 02

独居でも最期まで ご自宅での生活を

疾患名 90代 / 慢性心不全末期

保険 介護保険（特別訪問指示書で医療保険の期間あり）

訪問体制 看護師（週7回）・理学療法士（週1回）

独居のため「自宅退院した場合は、ひとりで最期を迎える可能性がある」と医師から説明があり、ご本人もご家族も迷いはありましたが、退院を希望されました。退院直後は毎日訪問しヘルパーと連携して、水分摂取量や服薬の確認、ご本人の好きな物や会話した内容の共有を行いながら、病状の安定と安心した生活を支えました。ご家族とお会いする機会は数回でしたが体調の変化をお電話でお伝えし、ご家族の「このまま自宅で良いのか」という迷いに寄り添いました。独居のリスクをお伝えしつつ最大限の支援も説明し、どちらを選んでも間違いはないとお伝えしました。その都度往診医やケアマネジャーとも情報共有し、皆でご本人やご家族中心の関わりを大切にしました。穏やかにご自宅で最期を迎えることができました。



「生きる」を見るストーリー

Case 03

ホスピスからご自宅へ。 最終段階を心穏やかに過ごすための緩和ケア

疾患名 膀胱がん

保険 医療保険・要介護5

ご要望 70代・ご夫婦で同居・「家で過ごしたい」とホスピスからご自宅へ

訪問体制 看護師（週7回）・理学療法士（週2回）

多職種連携による苦痛緩和と、ご自宅での最期のご支援

ご本人のご希望によりホスピス（緩和ケア病棟）から退院。退院前カンファレンスから参加し、医師やケアマネジャーの方と情報連携させていただきながら、退院後の連日訪問を開始しました。

リンパ節転移による足の痛みがあり、少しでも穏やかに過ごしていただくため看護師は疼痛評価や持続皮下注射の管理を、理学療法士は安楽保持のためのポジショニングや環境調整を行い、ヘルパーの方とも服薬のタイミングを相談しながらチームとして苦痛緩和に尽力しました。また、リンパ浮腫や蜂窩織炎をくりかえし発症していましたが、患部の洗浄や処置を細かく行うことで改善し、ご自宅にてきれいな姿で旅立ちできたことを妻様が大変喜ばれ安堵されていました。最期はお母様が仕立てられた浴衣を着て、ご家族に見守られながら旅立たれました。



■ケア内容

看護	麻薬（持続皮下注射）、麻薬薬剤管理、人工膀胱のストーマ交換・管理、皮膚状態観察、服薬確認、家族支援 など
リハビリ	体位変換、ポジショニング、環境調整、ストレッチ、運動支援 など

担当スタッフより

ステーション小金井 管理者・緩和ケア認定看護師 中村 陽子

しびれを伴う疼痛管理と繰り返す蜂窩織炎があり、念のため緩和ケア病棟に再入院できる体制で支援を引き継ぎました。「もう入院しない」というご本人の強い意志があり、在宅で最期まで過ごしていただけるよう、医療機器

の管理や服薬の調整などはチームで最大限対応。妻様の負担感がないか常に確認しました。結果的に「毎日来てくれるから安心できる」とのお言葉をいただき、最期までご自宅での療養のご支援ができたことを嬉しく思います。



お客様・地域機関の皆様への満足度調査

お客様、地域機関の皆様のご要望に向き合うため、毎年調査を実施。調査結果は、クオリティマネジメント部門を中心に分析し、アセスメント力向上や専門ハンドブック整備など、品質向上のための取り組みを進めています。

お客様

回答者数：7,066名
(2023:6,459名)

NPS*

ソフィアメディ訪問看護ステーションを
知人に紹介しようと思う

25.2

2023 17.6

*9~10点を付けた方を「推奨者」、7~8点を「中立者」、0~6点を「批判者」と分類し、回答者全体に占める推奨者の割合(%)から、批判者の割合(%)を引いた数値

本人に合った
看護・リハビリをして
くれていると感じる

84.4%

2023 84.6%

看護・リハビリの
内容について
分かりやすく
説明してくれていると
感じる

83.2%

2023 83.5%

困っていることや
不安に感じている
ことについて、
私に合った対応を
してくれていると感じる

84.7%

2023 86.0%

主治医・
ケアマネジャー・
ヘルパー等の関係者と
十分に情報共有
してくれていると感じる

78.0%

2023 77.6%

地域機関

回答者数：2,405名
(2023:1,366名)

弊社利用ステーションに対する
評価を教えてください
(肯定回答率)

86.0%

2023 88.2%

ステーションの
管理者 / スタッフは
相談しやすいと
感じる

85.1%

2023 87.8%

必要に応じて、
迅速な対応かつ
質の高い連携がとれると
感じる
(緊急時の対応含む)

81.5%

2023 83.5%

ステーションの
管理者 / スタッフは
丁寧なケアを
提供していると
感じる

86.4%

2023 88.0%

医療依存度の高い
お客様を受け入れる上で、
十分な専門知識を
有していると感じる

79.7%

2023 82.4%

中重度対応の強化と さらなる品質向上へ向けて



事業本部
第二事業部長

羽田 真博

お客様満足度調査では、任意調査として高い回収率となる7,066名の方にご協力賜り、心より感謝申し上げます。NPSは昨対比7.5ポイント増の25.2へと向上しました。「どのような疾患のご依頼も受け入れ、お客様に安心を提供し、在宅での療養をご支援させていただく」という方針のもと、特に多職種連携や緊急時対応を要する医療依存度の高いお客様から高い評価を得られたことが全体の向上に繋がりました。一方事業所ごとに評価の差も見られ、全事業所による品質の向上・

標準化が課題と考えます。

また地域機関向け調査では、回答数が1,000名以上増加した一方、各設問にてポイントの低下が見られました。担当者会議や退院前カンファレンスへの積極的な参加や、関係機関との密な情報連携、地域向け勉強会の開催等を推進しています。今後もすべてのお客様に質の高いケアを安定的にお届けできるよう、専門性と人間性、双方の向上に一層努めて参ります。



事業所一覧 (2025年10月時点)

※各エリア五十音順
(2025年10月開設を除く)

北海道

■訪問看護ステーション

豊平
琴似

※ 2025年10月開設

北陸

富山県

■訪問看護ステーション

射水
高岡
富山
富山北

石川県

■訪問看護ステーション

金沢西

関西

大阪府

■訪問看護ステーション

堺中央
堺中央分室堺北

奈良県

■訪問看護ステーション

橿原
香芝

九州

福岡県

■訪問看護ステーション

小倉
福岡中央
福岡西
福岡東
福岡南
八幡東

関東

東京都

■訪問看護ステーション

青物横丁
池上
大鳥居
大森町
小山
小山分室不動前
山王
白金高輪
西馬込
矢口
雪谷
豊町
経堂
自由が丘
成城
代田
千歳船橋
等々力

二子玉川
三宿・三茶
用賀
芦花公園
学大
駒場
代官山
東が丘
緑が丘
入谷
東日本橋
東向島
阿佐ヶ谷
永福
下井草
中野新橋
西荻窪
野方

大泉学園
小金井
小竹向原
調布
つつじヶ丘
光が丘
三鷹
国分寺
※ 2025年10月開設

■居宅介護支援事業所

学大
二子玉川
三鷹
緑が丘
矢口
雪谷

神奈川県

■訪問看護ステーション

青葉台
麻生
伊勢原
小田原
鹿島田
センター北
秦野

日吉
本厚木
溝口
宮前
武蔵小杉
元住吉

埼玉県

■訪問看護ステーション

朝霞
大宮
南浦和

東海

愛知県

■訪問看護ステーション

岡崎北
岡崎南
千種
天白
瑞穂

名西
名東
名北
一宮
守山

※2025年10月開設
※2025年10月開設

静岡県

■訪問看護ステーション

浜松中央
浜松中央分室浜松西

岐阜県

■訪問看護ステーション

大垣
大垣分室大垣北
岐阜
岐阜南

■居宅介護支援事業所

大垣



ソフィアメディ 活動レポート 2025



ソフィアメディ
公式HP



お問い合わせ
ご相談はこちら

2025年10月発行

ソフィアメディ株式会社

〒108-0023 東京都港区芝浦3丁目1-1 msb Tamachi 田町ステーションタワー N

■ **報告対象期間** 2024年4月～2025年3月

■ **制作協力** デザイン/studio GIVE 撮影/堺 亮太(P.1～7)・木原 基行(P.9)

■ **注意事項** 本レポートは、当社の企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社グループの発行する株式及びその他有価証券の勧誘を構成するものではありません。本レポートでは過去と現在の事実のみならず、将来の見通しに関する記述が含まれています。そのため、一定のリスクや不確実性を内包しており、過度に依拠することのないようご注意ください。本レポートには、当社が事業を行っている市場に関する情報を含む、外部の情報源に由来し又はそれに基づく情報が記述されています。これらの記述は、本資料に引用されている外部の情報源から得られた統計又はその他の情報に基づいており、それらの情報について当社は独自に検証を行っており、その正確性又は完全性を保証することはできません。当社は、本レポートに含まれるいかなる情報についても、今後生じる事象に基づき更新や改訂の義務を負うものではありません。